

平成 26 年 6 月 2 日

函館市国際水産・海洋総合研究センター内に

マリンラボ開設しました！

函館市国際水産・海洋総合研究センターとは？



■総事業費 約 45 億円

■所在地 函館市弁天町 20 番 5 号 [敷地面積 58,944.70m²]

■建物概要 延床面積 8,866.79m²

□本館棟 [鉄筋コンクリート造 2 階建 (一部 4 階建) 7,543.61m²]

- ・ 研究室 (入居研究機関の居室およびドライラボ 計 31 室)
- ・ 共用実験施設 (生物・化学系ウェットラボ、飼育培養系施設など)
- ・ 大会議室 (最大 300 名収容)、中会議室
- ・ ラウンジ、ギャラリー、展示スペース
- ・ 実習室
- ・ 管理事務所、コーディネートセンター

□海洋調査研究棟 [鉄骨造 2 階建 974.40m²]

- ・ 実証実験室、機器調整室、工作整備室
- ・ 精密器具庫、調査機器保管庫

□取水棟 [鉄筋コンクリート造平屋建 287.99m²]

- ・ ろ過海水貯水槽、ポンプ室など

□車庫棟 [鉄骨造平屋建 60.79m²]

国際水産・海洋都市構想の研究拠点となる旧函館ドック跡地に、国・大学・道・民間などの学術研究機関が集積した複合的研究施設として「国際水産・海洋総合研究センター」を整備し、港湾機能と一体となった一大水産・海洋研究ゾーンを形成します。



研究テーマ

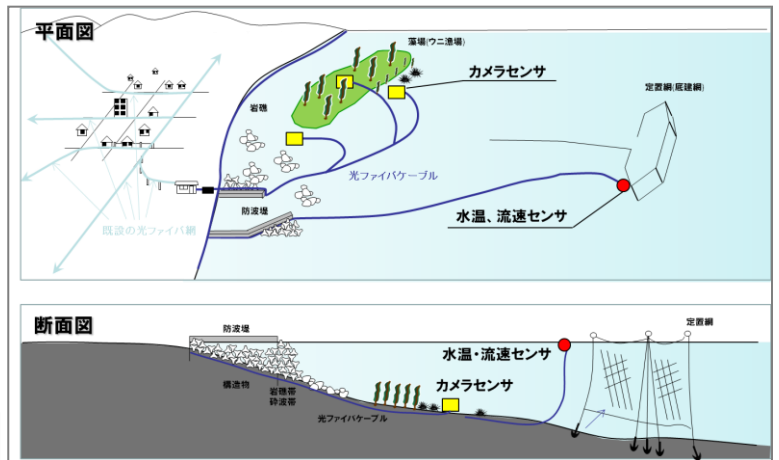
① マリンITの技術開発

光ファイバを用いた海洋環境モニタリング技術を開発し、水産業、防災・減災や海上交通等の分野に活用できる基礎データの取得を目指します。

実施予定項目

- ✓ 開発中のセンサ(水温、潮位)の試験運用および性能検証
- ✓ 新規センサの開発
- ✓ 給電システムの検討

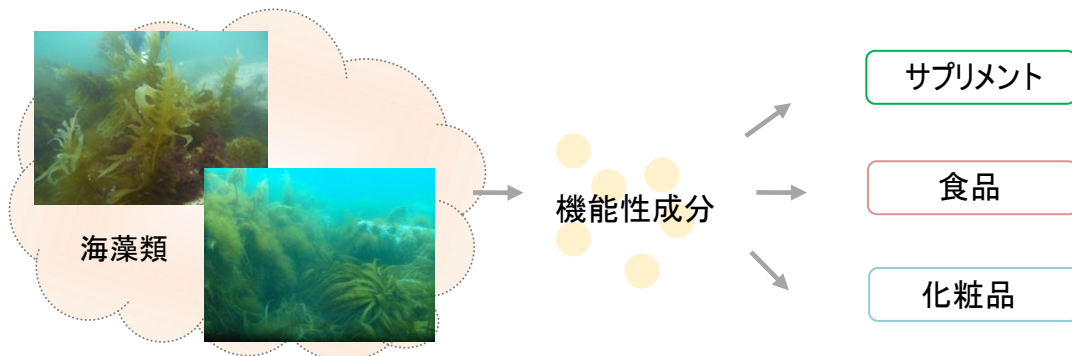
定置網における光ファイバ設置モデル。水温、流速や網の歪みを検知することで漁労軽減を目指します。



▲ 浅海域での観測イメージ

② 機能性成分を有する藻類の大量培養ならびに浅海域での養殖技術開発

海藻類における機能性成分の探索を行います。また天然海藻由来の機能性成分の量産を見据え、大量培養技術および浅海域での養殖技術の開発を目指します。



③ 藻場造成の新技术開発と付随する技術の開発

従来の藻場造成手法と比較して、より安価な手法を構築し、技術普及および藻場面積の拡大を目指します。



新たな藻場造成技術

例) フシスジモクにおける成体移植試験



株式会社 **エコニクス** マリン ラボ

- 海の環境変化に対応した水産資源の再生を目指し、研究開発に取り組みます。
- 各種環境調査・解析、化学分析についての知見・技術もごさいます。

お気軽にご相談下さい。

〒040-0051 函館市弁天町 20 番 5 号 函館市国際水産・海洋総合研究センター 101 号室

所長 鹿糠 幸雄 info@econixe.co.jp 電話:(0138)85-8737 FAX:(0138)85-8738

